



## 2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月8日

上場会社名 株式会社 秀英予備校  
コード番号 4678 URL <https://www.shuei-yobiko.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 武  
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 渡辺 喜代子

TEL 054-252-1792

四半期報告書提出予定日 2023年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	7,854	1.4	157	4.0	162	0.3	51	
2022年3月期第3四半期	7,962	2.3	164	130.8	161	174.1	136	

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 51百万円 ( %) 2022年3月期第3四半期 143百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	7.64	
2022年3月期第3四半期	20.35	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	10,494	4,629	44.1	689.92
2022年3月期	10,700	4,618	43.2	688.30

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 4,629百万円 2022年3月期 4,618百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		6.00	6.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,900	0.1	350	20.3	355	18.6	145	247.0	21.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	6,710,000 株	2022年3月期	6,710,000 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	319 株	2022年3月期	319 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	6,709,681 株	2022年3月期3Q	6,709,681 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス変異株の流行による「第8波」が拡大し、観光、飲食、交通、物流など依然として多くの産業が大きな痛手を被るところとなっております。また、ロシアのウクライナ侵攻に端を発した、エネルギー、穀物、原材料価格等の上昇の影響による物価高や、為替相場が大きく変動する等、先行き不透明な状況が続いております。

当業界におきましては、コロナ禍における開講形態の工夫、ライブ授業とオンライン授業の併用・オンライン保護者会の開催などにより、ほぼコロナ禍前の市場規模となっております。一方、大手塾・中規模塾のチェーン展開、FC展開などにより一層の過当競争の状況となっております。

このような経営環境において、当社グループにおきましては、自宅で受講するオンライン授業の拡充、家庭学習のオンライン管理、オンライン保護者会・入試説明会の実施など積極的にオンラインを活用してまいりました。

また、第3四半期におきましては、次年度の生徒募集のため、受験学年以外の低学年の冬期一般生募集と講習明けの入学活動を重点に取り組んでまいりました。以上により、集団部門での長期にわたる生徒数減少を増加に転ずることができました。しかしながら、当第3四半期におきましては、売上単価の高い中3・高3生が減少していたため、全体の売上高は減少となりました。

営業費用におきましては、電気料金の値上げによる水道光熱費の増加があるものの、配布教材の種類の見直しによる教材費の削減、視聴用PCをタブレットに変更したことによるリース料の削減等を行いました。以上により、営業費用全体として減少するところとなりました。

営業外損益におきましては、大きな変動はありません。

特別損益におきましては、9月末および12月末現在における低学年生徒数の状況、市場環境の状況等により将来の収益性を検討した結果、11校舎の閉鎖を決定いたしました。また、全社資産として所有しておりました社宅につき、建物の老朽化に伴い売却を決定いたしました。以上により、店舗閉鎖損失引当金繰入額および減損損失を計上しております。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は7,854百万円（前年同四半期は7,962百万円）、営業利益は157百万円（前年同四半期は営業利益164百万円）、経常利益は162百万円（前年同四半期は経常利益161百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は51百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失136百万円）となりました。

なお、季節的変動要因として、当社グループの生徒数は小中学部・高校部ともに夏期講習・冬期講習等の講習に参加した一般生が、それぞれ9月、1月に入学するため、売上高・営業利益ともに第2四半期以降に増加するところとなっております。一方、営業費用につきましては、人件費・賃借料等が毎月固定的に発生いたします。したがって、第1四半期に比べ第2四半期以降の収益性が高くなる傾向にあります。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。

#### (小中学部)

小中学部におきましては、中1以下の低学年が順調に推移したことにより、集団部門での長期にわたる生徒数減少を増加に転ずることができましたが、個別部門での生徒数は横這いとなっております。売上高におきましては、過去に新型コロナウイルスの影響を受けた受講単価の高い現中2・3の生徒数が前年を下回ったことを要因とし、全体として減少いたしました。ただし、オンライン特別講座は順調に売上高を増加させるところとなっております。営業費用につきましては、水道光熱費の高騰などにより前年同四半期を上回る科目もありましたが、新規採用社員数の減少、適正な教材管理、視聴用PCをタブレットに変更したことによるリース料の削減等により、全体として前年同四半期を下回る場所となっております。結果として、小中学部の売上高は6,717百万円（前年同四半期は6,824百万円）、セグメント利益は653百万円（前年同四半期はセグメント利益675百万円）となりました。

#### (高校部)

高校部における売上高は、高単価の高3受験学年の生徒数が減少していたものの、現高1の生徒数が順調に推移したため、対前年同四半期で増加となりました。一方、営業費用につきましては、水道光熱費の増加により前年同四半期を上回る場所となっております。結果として、高校部の売上高は1,083百万円（前年同四半期は1,080百万円）、セグメント利益は161百万円（前年同四半期はセグメント利益181百万円）となりました。

(その他の教育事業)

F C部門における売上高は、予算を下回るところとなっております。要因は、生徒一人あたりの売上単価は上昇しているものの、F C部門の総生徒数が減少しているためであります。営業費用につきましては、ほぼ前年同四半期並みに推移しております。結果として、その他の教育事業の売上高は54百万円(前年同四半期は56百万円)、セグメント利益は27百万円(前年同四半期はセグメント利益27百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて98百万円増加し、2,577百万円となりました。これは主として、第2四半期以降の生徒数増加による授業料等の入金に伴い、現預金が増加したためであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて303百万円減少し、7,909百万円となりました。これは主として、有形固定資産・無形固定資産の減価償却が進んだこと、建設協力金の回収が進んだためであります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べて205百万円減少し、10,494百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて131百万円減少し、2,801百万円となりました。これは主として、第2四半期以降の生徒数増加に伴い、12月末における翌月分授業料の入金が増加したことにより契約負債が増加したものの、短期借入金が返済および長期への借換により減少したためであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて85百万円減少し、3,064百万円となりました。これは主として、私募債およびリース債務の返済が進んだためであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて216百万円減少し、5,865百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて10百万円増加し、4,629百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の43.2%から44.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年11月9日に公表いたしました通期の連結業績予想の変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,861,506	1,979,825
受取手形、売掛金及び契約資産	139,792	192,669
商品	94,603	49,337
貯蔵品	14,574	12,693
その他	374,721	349,092
貸倒引当金	△5,850	△5,641
流動資産合計	2,479,348	2,577,978
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,493,664	2,392,491
土地	3,301,493	3,281,655
その他(純額)	84,441	72,803
有形固定資産合計	5,879,599	5,746,950
無形固定資産	109,719	54,978
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,879,342	1,772,889
退職給付に係る資産	228,203	239,262
その他	118,459	97,798
貸倒引当金	△2,956	△2,795
投資その他の資産合計	2,223,048	2,107,154
固定資産合計	8,212,367	7,909,083
繰延資産		
社債発行費	9,023	7,770
繰延資産合計	9,023	7,770
資産合計	10,700,740	10,494,831
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	545,000	410,000
1年内償還予定の社債	50,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	377,580	295,876
未払金	581,577	579,024
未払法人税等	111,573	68,292
契約負債	602,275	773,459
賞与引当金	159,107	46,634
店舗閉鎖損失引当金	6,729	46,496
その他	498,260	531,227
流動負債合計	2,932,102	2,801,011

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>固定負債</b>		
社債	250,000	225,000
長期借入金	347,298	343,623
繰延税金負債	78,934	77,991
退職給付に係る負債	884,368	923,717
資産除去債務	600,914	592,115
その他	988,832	902,196
固定負債合計	3,150,348	3,064,643
<b>負債合計</b>	<b>6,082,451</b>	<b>5,865,655</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	2,089,400	2,089,400
資本剰余金	1,835,655	1,835,655
利益剰余金	674,415	685,485
自己株式	△154	△154
株主資本合計	4,599,316	4,610,385
<b>その他の包括利益累計額</b>		
退職給付に係る調整累計額	18,972	18,790
その他の包括利益累計額合計	18,972	18,790
純資産合計	4,618,289	4,629,176
<b>負債純資産合計</b>	<b>10,700,740</b>	<b>10,494,831</b>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	7,962,413	7,854,783
売上原価	6,732,151	6,669,132
売上総利益	1,230,262	1,185,651
販売費及び一般管理費	1,065,710	1,027,736
営業利益	164,551	157,914
営業外収益		
受取利息	8,760	6,558
受取配当金	2,191	2,304
受取賃貸料	12,519	12,163
その他	12,639	9,882
営業外収益合計	36,111	30,909
営業外費用		
支払利息	27,139	19,307
その他	11,967	7,397
営業外費用合計	39,107	26,704
経常利益	161,555	162,120
特別損失		
店舗閉鎖損失	40,200	-
店舗閉鎖損失引当金繰入額	9,250	40,487
減損損失	204,625	27,983
特別損失合計	254,075	68,470
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△92,520	93,649
法人税、住民税及び事業税	46,332	43,187
法人税等調整額	△2,260	△865
法人税等合計	44,072	42,321
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△136,593	51,327
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△136,593	51,327



四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△136,593	51,327
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△7,086	△181
その他の包括利益合計	△7,086	△181
四半期包括利益	△143,679	51,145
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△143,679	51,145
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	小中学部	高校部	その他の教育事業	計
売上高				
集団(黒板を使った集団授業)	3,644,886	1,018,772	—	4,663,658
iD(映像を使った個別授業)	914,332	—	—	914,332
個別(講師による個別指導)	2,244,441	—	—	2,244,441
その他	21,107	61,939	56,933	139,980
顧客との契約から生じる収益	6,824,767	1,080,712	56,933	7,962,413
外部顧客への売上高	6,824,767	1,080,712	56,933	7,962,413
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	16,891	16,891
計	6,824,767	1,080,712	73,825	7,979,305
セグメント利益	675,649	181,840	27,319	884,809

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	884,809
セグメント間取引消去	17,643
全社費用(注)	△737,901
四半期連結損益計算書の営業利益	164,551

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産の減損損失として、204,625千円を計上しております。

セグメントごとの減損損失計上額は、当第3四半期連結累計期間においては小中学部204,625千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	小中学部	高校部	その他の教育事業	計
売上高				
集団(黒板を使った集団授業)	3,620,408	1,021,156	—	4,641,564
iD(映像を使った個別授業)	842,554	—	—	842,554
個別(講師による個別指導)	2,241,786	—	—	2,241,786
その他	12,725	61,916	54,234	128,876
顧客との契約から生じる収益	6,717,476	1,083,072	54,234	7,854,783
外部顧客への売上高	6,717,476	1,083,072	54,234	7,854,783
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	15,716	15,716
計	6,717,476	1,083,072	69,950	7,870,499
セグメント利益	653,178	161,965	27,377	842,521

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	842,521
セグメント間取引消去	17,643
全社費用(注)	△702,250
四半期連結損益計算書の営業利益	157,914

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
(固定資産に係る重要な減損損失)

固定資産の減損損失として、27,983千円を計上しております。

セグメントごとの減損損失計上額は、当第3四半期連結累計期間においては小中学部8,145千円、報告セグメントに帰属しない全社資産19,838千円であります。